

（寄稿）

社会福祉法人におけるマネジメント発想

NOMURA

1951年に創設された社会福祉法人制度は、社会福祉の発展において重要な役割を担ってきましたが、1990年代以降、民間企業等の参入、公的財政の悪化、規制緩和の流れなどの変革が起こり、社会福祉法人を取り巻く環境に変化をもたらしています。

今後15年間は日本の高齢化が最も進み認知症高齢者数の増大、単身世帯や夫婦のみの世帯の増加といった今まで経験をしたことがない社会状況の変化が起こる時代を迎えることになり、社会福祉法人としても、このような変化に的確に対応し、新たなニーズに応えていくことが強く求められます。

本レポートでは、社会福祉法人が経営環境の変化に対応するため、新たな時代における福祉事業の新しい方向性「マネジメント発想」について考察していきます。

現在では訪問介護やデイサービス等の居宅サービスの利用者の半数近くは、民間企業によるサービスを利用しています。非営利を前提とした慣習、現場での発想や行動は、営利法人である民間企業をリードできるものになっていかなくてはなりません。

マネジメントが新しくなれば、それによって提供されるサービスも当然新しいものがが必要です。一人ひとりが主役になれるような、一人ひとりの思いや体験に耳を傾け、より幸せを感じられるようなプログラムが必要です。具体例として、「ヒーリング・アーツ」を取り上げます。

今後の地域における社会福祉法人のあり方や福祉施設経営のご参考としていただければ幸いです。

2010年6月18日

Healthcare note

(No. 10~12)

寄稿者名
桜美林大学
健康福祉学群
教授 福田 潤

編集主幹
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

編集・要約
福井 陽子